

「ちよいとお前さん、今のうちに蚊遣りを炊いておくれな」

豚の形の蚊遣りの容れ物は、江戸時代からあったそうです



ごだいづけ

江戸時代中期の安永頃（一七七二〜一七八一年）から江戸後期にかけて、主に京阪地方で結われたもの。梳き髪の一つで、髪の毛を洗ったり梳いたり後、本式に結うまでの間、一時的に簡単に結われていた形。

サイズ約 24cm 制作／高森春恵

髪を結び上げていた時代、髪を洗ったりとかしたりするのには髪をほどいた後、本式に結うまでの間のまとめ髪にも名がついていることに驚いている。兵庫まげの輪をぐっと前に倒して、手早くまとめた感じが出ている。安永八年（一七七九年）刊の『当世かもし雛形』（京都で出版されたヘアカタログ）や、文政十年（一八一三年）刊の『都風俗化粧伝』に登場する。守貞謄稿では、むすび髪として京阪ではすき髪といい、江戸で結われている兵庫結びの古風な形のようにだと述べられおり、文政（二八一八〜一八三一年）頃まで、櫛に巻いた梳き髪の絵を紹介している。



近世風俗志（二）守貞謄稿 卷之十より

前に倒れた形は、手がやりやすかったため



ちよつとそこまでだから耳かきかんざしきして



「アア、今日も暑い。夕方になっても涼しくなりやあしない。瓜の塩もみと冷や奴で一杯やろうかえ。」

